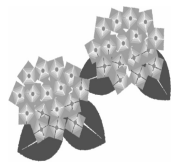




## 脱原発社会を実現しよう



### ◆スイスも脱原発へ

スイスは五月二十一日、国民投票を実施しました。原子力発電所への依存度を下げる政府の長期エネルギー戦略に対する賛否を問うもので、原発の新設を禁止し、代わりに再生可能エネルギーの利を増やすというものです。公共放送RTSによると賛成が五八・二%、反対は四一・八%でした。スイスでは現在、電力の約三分の一を原発に依存していますが、東京電

力・福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、脱原発方針を決定。今回の国民投票の結果を受け、長期エネルギー戦略に基づく改正法が二〇一八年

に施行される見通しです。既存の原発は安全性を確保できなくなった段階で解体します。世界の流れは脱原発です。

### ◆「再稼働容認できず」

#### 滋賀県知事

この原稿を書いている六月一日、高浜三号機の

再稼働が六月六日と伝えられています。

三〇キロ圏に一部の地域が含まれる滋賀県の三日月知事は五月三〇日、環境省で山本原子力防災担当大臣と会談し、福井県にある原発の再稼働に際して、実効性ある多重防護体制の構築などを求める要望書を手渡ししました。

このあと報道陣に対し三日月知事は「原発に依存しないエネルギー社会を作るべきだと伝えた。避難訓練を行うたびに新

たな課題が出てくる」と話しました。

滋賀県の西嶋副知事も同日、原子力規制庁を訪れ、荻野次長に、原発事故に備えた地域の避難計画の審査を、法的に位置づけることなどを求める要望書を提出しました。

避難計画は、現在、原子力規制委員会による審査の対象になっていないからです。ちなみにアメリカでは避難計画のない原発建設は認められません。

それなのに日本では、大飯原発三号機と四号機も、五月、再稼働の前提になる新しい規制基準の審査に合格しました。

なぜ福島原発の過酷事

故を起こした日本が、原発推進なのでしょうか？

こうなっているのは、原発マネーがマスコミの隅々まで行き渡り、「原発でなければ電気の安定性」

が得られないという宣伝が生き届いているからともいえますが、福島原発

事故から六年、一般の関心が薄れてきていることも原因の一つではないでしょうか。

◆内部被曝がさけられないトリチウム

(三重水素)

トリチウムは放射性物質であるにもかかわらず、

人間と生物への影響が過小評価され続けてきました。

です。原子力発電所から事故がなくても日常的に放出され続けています。

トリチウムは水として存在するので外部被曝よりも内部被曝が問題になります。

体内にトリチウムが入り込むと、放射線によって周りの細胞が破壊されます。細胞の中の遺伝子の中に入り込むと、放射線により遺伝子を傷つけます。遺伝子が傷つくと、

遺伝子は修復しますが、その時、修復に失敗する場合があります、修復に失敗した遺伝子は異常な遺伝子となり、やがてガンになります。

ガンが多発

◆泊原発周辺は

ガンが多発

北海道の泊原発は、加圧水型で、沸騰水型よりトリチウムを、たくさん発生させます。

泊原発では過去二五年間で五七〇兆ベクレルも大量に海に捨てています。海に捨てたトリチウムは、約四〇％は蒸発し、風の影響で、少なくともその半分の二〇％は、海岸に戻ってきます。

そして海岸線の泊村、岩内町、寿都町、島牧村の住民にガンが多発して

います。

さらに言えば、福島第一原発の汚染水タンクには総量八百兆ベクレル(二〇一三年十二月時点、東電の推定)のトリチウムがあります。漁師の反対で止まっていますが、これを海に捨てようとしています。

私たちが無関心でいる限り、原発推進を止めることはできません。みなさん、原発に反対しましょう。行動しましょう。

アート・アド分会 N

※参照…トリチウムの三つの危険性・内部(放射能)ひばくする放射性水素II「トリチウム」の「正体」／斎藤武一さん(岩内原発問題研究会)

アート・アド分会 N

※参照…トリチウムの三つの危険性・内部(放射能)ひばくする放射性水素II「トリチウム」の「正体」／斎藤武一さん(岩内原発問題研究会)